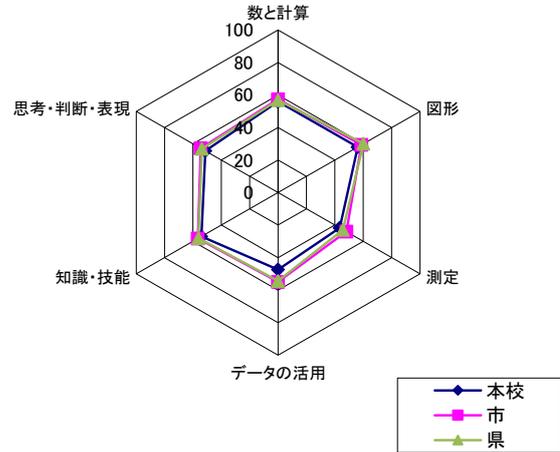


宇都宮市立錦小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.0	57.4	56.9
	図形	56.1	58.7	60.1
	測定	43.4	48.1	45.7
	データの活用	47.4	54.9	54.3
観点	知識・技能	54.1	56.6	56.2
	思考・判断・表現	51.3	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市よりもやや低い。 ○式の意味を正しくとらえ、言葉で説明することができるかどうかをみる問題の正答率は、県の正答率を9.1ポイント上回っている。 ●分数の表す正しい大きさを答える問題の正答率は、県の正答率を11.9ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 加減乗除の計算を朝の学習の時間やAドリルを活用して繰り返し復習することで、定着を図る。 ●数直線で目盛りが表す数の大きさを分数で表したり、分数の表す数の大きさを説明したりして、既習の学習内容が定着するよう指導する。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市よりも低い。 ○球を平面で切ったときの正しい切り口の形を選ぶ問題の正答率は、県の正答率を3.2ポイント上回っている。 ●正三角形を作図する問題の正答率は、県の正答率を9.4ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な作図問題で、コンパスの使い方の定着を図るとともに、円の性質を利用して三角形を作図するといった応用問題にも慣れるように復習する機会を設ける。
測定	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市よりも低い。 ○時間が経過する前の時刻を求める問題の正答率は、県の正答率を3.7ポイント上回っている。 ●単位をそろえて2つの道のりの和を比べ、どちらの方が短い説明する問題の正答率は、県の正答率を13.1ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 物の重さや長さを計測する活動を設定したり、単位の意味について復習したりして、既習の学習内容が定着するよう指導する。 ●単位のそろえ方や、基準量をもとにした考え方について自分の考えを相手に伝える時間を確保し、思考力の育成を図る。また、友達の考えに触れる場を設け、互いの考えを深められるようにする。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市よりも低い。 ●二次元の表の合計欄の数を答える問題や、二次元のから傾向を読み取る問題はいずれも県の正答率を下回っている。 ●目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ問題の正答率は、県の正答率を4ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●グラフの学習では、グラフの作図だけでなく、1目盛りが表す数の大きさに注意しながら棒グラフを読みとることもできるよう、繰り返し指導する。 ●他教科との関連を図り、資料として棒グラフが提示されている場合には、目盛りを正しく読み取りグラフから読み取れることを発表したりする場を設ける。また、様々なデータに触れさせることで繰り返し復習できるようにする。